

知床は、北半球で流水を見ることができる最南限の地です。

「流氷初日を待つ日々」
流氷は、知床から約100キロ離れたサハリンから北風に乗って南下します。オホーツク海で南下した流氷は、今度は北西の風におされて知床半島にやってきます。

「流氷初日」とは、視界外の海域から漂流してきた海水が視界内の海面に初めて現れた日を指します。この流氷初日を撮りるのがすわけにはいきません。

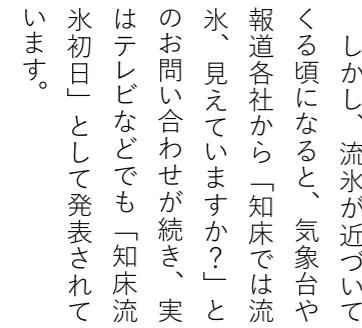
「今日こそは流氷が見えるかな?」と、毎日の出勤途中にそわそわと海を眺め、流氷を探します。出勤してからも、「もしや流氷が見ているのでは?」と力

め、流氷は、知床から約100キロ離れたサハリンから北風に乗って南下します。オホーツク海で南下した流氷は、今度は北西の風におされて知床半島にやってきます。

「流氷初日」とは、視界外の海域から漂流してきた海水が視界内の海面に初めて現れた日を指します。この流氷初日を撮りのがすわけにはいきません。

「流氷初日」とは、視界外の海域から漂流してきた海水が視界内の海面に初めて現れた日を指します。この流氷初日を撮りのがすわけにはいきません。

「流氷初日」とは、視界外の海域から漂流してきた海水が視界内の海面に初めて現れた日を指します。この流氷初日を撮りのがすわけにはいきません。



流氷を感じる 展示を目指して

撮影した写真是自然センターの掲示板に毎日並べて貼りだし、その年の流氷の動きが一目で分かるように展示しています。

ひとむかし前まで、流水間中には毎日あたりまえのように見られた流氷ですが、ここ十数年ほどは、流氷期間中であっても接岸した定着氷が一時的に離岸し



流氷初日を待つ日々

流氷は、知床から約100キロ離れたサハリンから北風に乗って南下します。オホーツク海で南下した流氷は、今度は北西の風におされて知床半島にやってきます。

「流氷初日」とは、視界外の海域から漂流してきた海水が視界内の海面に初めて現れた日を指します。

観測の日々

メラ片手にプユニ岬へ確認に向かう日もあります。

ういった過程を経て、流氷シーズン到来への期待と実感がわいてきます。

ついに流氷初日

一月中旬から下旬頃、スタッフ一同が待ちわびた流氷初日を迎えます。

私たちが行っている流氷観測は、知床財團独自調べであるため、網走地方気象台が公表する流氷初日とは日にちが異なります。

しかし、流氷が近づいてくる頃になると、気象台や報道各社から「知床では流氷、見えていますか?」とのお問い合わせが続き、実はテレビなどでも「知床流氷初日」として発表されています。

こうして三月中旬頃の流氷終日を迎えるまで、撮影を毎日欠かさず続けます。

切りります。

そこで、視界内に流氷が見られないという日もあります。

知床には国内外各所から流氷を見るためにたくさんの方々が訪れます。せっかくはるばる知床まで来たのに流氷が見られないと残念がるお客様のために、「今日は見られなかつたけれど、知床は確かに流氷がされている場所なのだ」と、よしり実感していただける展示を目指しています。



活動レポート 流氷定点観測



文：公園事業係 高畠 愛

観測は、自然センターから程近い、オホーツク海を一望できるプユニ岬で行います。スタッフが流氷初日から流氷終日まで、毎日同じ場所で、同じ画角で流氷の写真を撮り続け、そのように見えますが、実は毎日スタッフが撮影ポイントに通り、手動で撮影しています。

観測は、自然センターから程近い、オホーツク海を一望できるプユニ岬で行います。スタッフが流氷初日から流氷終日まで、毎日同じ場所で、同じ画角で流氷の写真を撮り続け、そのように見えますが、実は毎日スタッフが撮影ポイントに通り、手動で撮影しています。

活動日記



知床サステイナブルフェス 2023 開催!

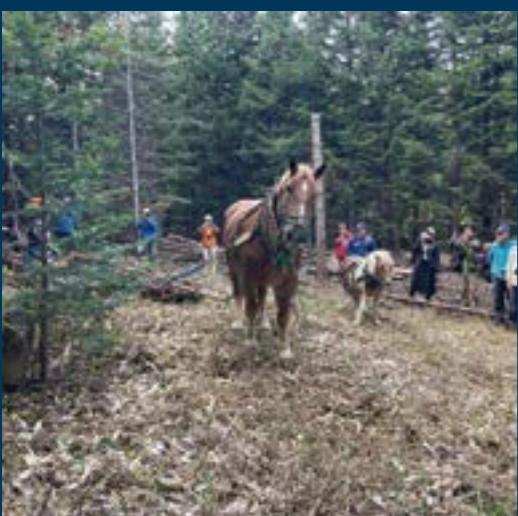
今年も「Shiretoko Sustainable Fes」が開催されました!このイベントは、2018年に『知床アウトドアフィルムフェス』として知床自然センターを中心とするホロベツ園地の魅力向上を目指す祭典として始まりました。現在は「サステナビリティ(持続可能性)の気づき」をテーマに、知床の環境や暮らしについて考えたり、国立公園のより良い利用や保全のあり方を模索するイベントとして毎年秋に開催されています。



今年は、ウトロ国立公園エリアと斜里市街地の2拠点で行われ、斜里市街地会場では「暮らしこそ環境」、ウトロ会場では、「自然と環境」をテーマにそれぞれのプログラムが実施されました。

初の試みとなった馬搬体験ではしれとこ100平方メートル運動と連携し、大人から子供まで気軽に森づくりの歴史と現在の取り組みを体感できるメインコンテンツとして人気を博しました。サステイナブルトークでは日本の世界自然遺産5地域を繋ぐ試みをはじめ、様々なテーマでトークが展開され、オンラインライブ配信も行われました。

その他にもアクティビティやワークショップなど知床での暮らしや自然を気軽に体験することができました。全てのプログラムを通して知床のサステナビリティの広がりをより実感することのできるイベントとなりました。



◆当日の詳細については
知床サステイナブルフェス
公式HPをご覧ください



「開拓小屋ブックカフェ」での
紙芝居公演

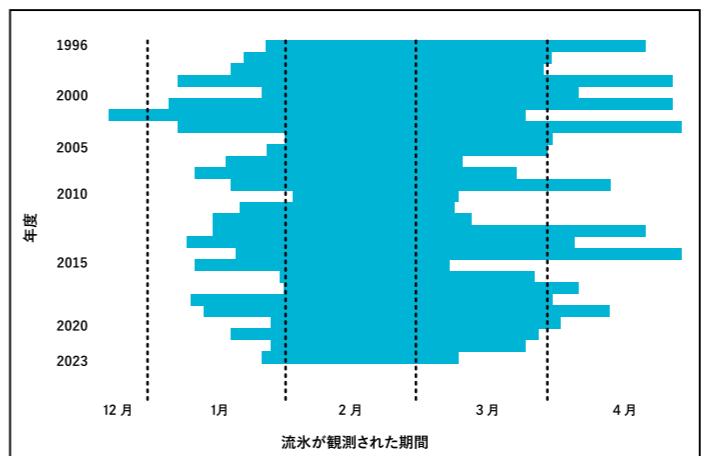


地元のサステイナブルなグッズや美味しいものが集まるフード&マーケット



日本の5つの自然遺産を繋げる
「サステイナブルトーク」

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの?
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。



※1 氷量…ある海域での全海面に対する氷の部分の面積比率。

※2 密接度…ある海域の中の氷の分布状態が、ばらばらになっているかつまっているか、その平均の密集程度を十分位法で表したもの。

二〇一四年から昨年までの記録写真データを見ると、氷量(※1)自体が年々減つており、密接度(※2)も徐々に低下しています。世界規模でいえば、二〇一一年から二〇二〇年

は、少なくとも一八五〇年の北極域の年平均海水面積は、以降で最小規模に達したと氣象庁からも発表されています。肌感覚でいっても温暖化は進んでいますが、経年のデータを見比べると、知床の流氷の減少も確実に進行していることがわかります。

7年前と比較しても氷の厚さと密接度が少なくなっていることが見た目からも感じられます。

定点観測写真データから比較するプユニ湾の流氷 氷量と密接度

※比較しやすい年度と日時を例として一部抜粋したもの



遠くサハリンからやってくる流氷には、アムール川の栄養分が豊富に含まれており、流氷が来ることで知床の海は豊かになります。栄養分たっぷりの海から川、森へとつながる知床独自の豊かな生態系は、この流氷がもたらしてくれています。

スタッフの冬の楽しみでもあり観光資源としても大切な流氷は、実は知床の自然や生態系のためになくてはならないものなのであります。後世いつまでも流氷がある知床であるよう、願つてやみません。

そして将来的にこの観測が、知床の流氷の変遷を振り返る一助となれるよう、今後も毎年記録していくといっています。

知床と流氷